

獣医師会の目指すべき方向

—会員と構成獣医師と共に歩む日本獣医師会に期待を—

藏内勇夫[†] (公益社団法人 日本獣医師会会長)



1 政策提言における「歩む方向」

構成獣医師の皆様や日本獣医師会会員である地方獣医師会を取り巻く環境が厳しさを増している今日、これまでの手法では問題の解決は難しく、歴史と伝統のある本会の歩むべき道を失いかねません。

本会に求められていることは、医学、歯学及び薬学分野等と競争・協働し、迅速な決断力と行動力、政治と行政機関への信頼関係を修復し誠意ある交渉力、問題の本質を見抜く洞察力、組織的にかつ論理的に対応を図ることができる強いリーダーの誕生であります。昨年4月に日本獣医師会次期会長候補者として、政策提言を発表しました。

その中で公益社団法人である日本獣医師会は、地方獣医師会及び構成獣医師の社会的責任を果たし、高度専門職能集団としての職業を保証し、広範で基盤的かつ先端的獣医療を普及する等の責務を、合意形成の下で推進しなければなりません。特に、当面解決すべき優先課題について、就任後直ちに常設委員会並びに個別委員会で、さらに新たに設置する特別委員会で、組織的に検討し、工程表に基づいて迅速に結論を求めることを宣言しました。

2 具体的な「歩む方向」は

政策提言で具体的には、(1) 獣医療提供体制の整備と充実に向けて開業制度の在り方と開業ガイドラインの検討、(2) 狂犬病予防法に基づく適正なワクチン接種とその接種率の向上、並びにマイクロチップ装着の推進、(3) 獣医師養成機関である全国獣医系大学の教育環境の整備支援、(4) 家畜防疫業務の堅持、(5) 新規獣医師の適正配置による分野別及び地域別就業の偏在の解消、(6) 獣医療施設内における勤務獣医師の処遇改善と動物看護師の職務確立、(7) 女性獣医師の活躍の支援と勤務環境の

改善、特に職務と子育てを両立し継続的に働ける職場の確保、(8) 構成獣医師の確保と会員構成率の向上、(9) 高度専門職能集団としての活力並びに組織力の向上、(10) 獣医学術の振興と普及、構成獣医師の資質向上、(11) 地方獣医師会と日本獣医師会の連携強化であります。

これらの課題を解決するには、関係行政機関や医師会等諸団体、政権与党と綿密に連携を図り、工程表に沿って具体的に検討を進めなければならないこと、さらに、円滑に検討を進めるには、その進捗状況を定期的に地方獣医師会や構成獣医師に報告し、広く意見を求め、全員で情報の共有化と認識の一体化を図りながら進めること、昨年10月25日に開催予定の全国獣医師会会長会議で、課題の取り組み、タイムスケジュール、到達目標等について報告し、意見交換をする計画であること、また、開かれた会議や検討の場を設け、透明性のある結論を組織を上げて導き出すよう歩んでいくことの重要性を宣言しました。

当然、日本獣医師会としては、(1) 東日本大震災並びに福島第一原子力発電所事故に伴う畜産支援活動、獣医療提供及び獣医行政サービス等の支援活動と動物救護活動、(2) 口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザ等の越境感染症に対する防疫対策の整備、(3) 動物の保健衛生の向上、家庭飼育動物や学校飼育動物の福祉と健康の推進活動、(4) 獣医師専門職の育成、生涯学習の推進、(5) 関連学会や関連協会との連携・強化等、獣医学術の振興と普及等に一層活動を強めて、組織の充実と社会的信用の維持向上に努めることは言うまでもありませんとお伝えしました。

3 「歩む方向」の推進経過は

地方獣医師会及び構成獣医師の皆様と共に歩むことは、日本獣医師会の発展への筋であること、これらの課題は、就任後直ちに着手して平成26年度事業計画に反映させ、会長の下に設置した特別委員会や職域での常設

[†] 連絡責任者：藏内勇夫 (公益社団法人 日本獣医師会)

〒107-0062 港区南青山1-1-1 新青山ビル西館23階

☎03-3475-1601 FAX 03-3475-1604

E-mail : info@inchiju.lin.gr.jp

委員会での検討課題として、地方獣医師会のご理解により多くの構成獣医師の皆様が委員に就任され、活発な論議を展開しています。

特に課題の解決に向けては、地方獣医師会と本会が一体となって、スピーディーに結論を見出すことを第一にしています。また本会が公益社団法人である立場から、日本獣医師政治連盟を別組織として本会の事業活動を支援するため、同政治連盟は北村直人委員長にお願いし、車の両輪として力強く歩んでおります。また、全国獣医師会会長会議を広く意見交流の場として位置づけ、常設の議長は高橋三男埼玉県獣医師会会長にお願いしました。具体的な推進経過は、日本獣医師会雑誌の第67巻第1号(2014)の「新年のご挨拶」で以下のように述べました。

今日、我が国を含め世界各国で最優先課題として求められていることは、新しい国家ビジョンとミッションの確立であり、それに基づくグランドデザインの構築と施策の具現化、さらには国家間や組織間での相互信頼による新しい連携の強化であります。これらは、まさに日本獣医師会においても該当する課題であり、本年はこれまで以上に皆様方と情報の共有化に努め、一体となって積極的な提言とその実践をし、施策の検証とそれに基づく改善・改革を明確にし、本会の円滑な運営に努めてまいります。

近年、口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザ等の家畜法定伝染病が発生し、また、我が国では半世紀にわたり発生が制御されてきた狂犬病の侵入リスクが高まり、国民が安全で安心できる日常生活を確保する上で、大きなリスクの脅威があります。また、犬や猫が広く一般家庭で飼育され、動物が人の介護や福祉及び学校教育分野で活用される等、その社会的役割が一層重要視され、人と動物の共生社会の構築が国家的課題であります。これらに対して獣医師が質の高い獣医療を提供し、社会の期待に応えていくことが強く求められています。

そこで、獣医療提供体制の整備・充実が一層促進されるよう、具体的には、(1) 緊急災害時における被災動物対策としてのマイクロチップの普及推進について、(2) 人と動物の共通感染症対策の整備・充実に係る獣医師と医師の連携推進について、(3) 女性獣医師の就業支援及びキャリアアップの推進を要請いたしました。

第一の課題である緊急災害時の被災動物対策としてのマイクロチップの普及推進については、東日本大震災の被災動物救護活動において、動物の飼育者を確認する上でのマイクロチップの重要性が再確認されました。また、平成24年に公布された動物の愛護及び管理に関する法律の一部改正において、動物の所有者責任の強化が重要であるとの観点に立ち、マイクロチップ装着の義務化に向けて必要な措置を講じることが明文化されまし

た。また、平成25年に環境省が策定した「災害時におけるペットの救護対策ガイドライン」においても、平常時に飼い主が行う対策の実例として、ペットが迷子にならないための対策として、マイクロチップ等による所有者の明示があり、緊急災害時の対策としてマイクロチップ装着の重要性が示唆されています。すなわち、家庭動物の個体識別の合理的な方式としてのマイクロチップの普及推進の理解を図るものです。

第二の課題である人と動物の共通感染症対策の整備・充実に係る獣医師と医師の連携推進については、共通感染症に対する国民の関心が高まるとともに、これらの共通感染症の侵入と蔓延防止に係る社会的リスクを的確に対処するため、体制整備の重要性が指摘されています。共通感染症の予防において、人と動物の生活環境やフードチェーンの川上に位置する動物の医療を受け持つ獣医師と、その川下に位置する人の医療を受け持つ医師が緊密な連携を保つことが重要であります。日本獣医師会は日本医師会と連携し、共通感染症の危機管理や対策の整備・充実に関して情報交換し、国内や地域の防疫体制の整備を図るために、両組織が効果的に連携するための体制の整備を図るものです。

第三の課題は、女性獣医師の就業支援及びキャリアアップの推進についてであります。獣医学系大学において女性獣医師の増加が顕著となり、近年は各年度の新規獣医師の半数を女性が占めています。女性獣医師が継続的に就業し、しかも責任ある立場で潜在力を発揮し、幅の広い職域で活躍できるようにならなければなりません。近年、公務員獣医師職や産業動物獣医師職が不足すると言われる中、獣医師の職域や地域偏在を解決する上からも、女性獣医師が継続的に就業できる職場環境の整備を支援し、就業率の向上とキャリアアップを図ることは、獣医療提供体制の整備を促進する上で必要であります。そこで、速やかに新規女性獣医師の就業を支援する職場環境の改善・整備を図るものです。

さらに、日本獣医師会では、課題の重要性に鑑み、会長の下に狂犬病予防体制整備特別委員会、女性獣医師支援特別委員会、日本医師会との連携推進委員会を設置しました。狂犬病予防体制整備特別委員会では、今日の飼育犬を取り巻く社会環境の変化や飼育者ニーズの多様化の中、狂犬病予防接種率の低下、登録頭数と飼育頭数の乖離、狂犬病予防注射済票による注射頭数把握の実効性低下などの狂犬病予防事業低迷の状況を踏まえ、事業の実効性の確保と充実・強化を図るために、科学的根拠に基づいて検討を始めました。委員には地方獣医師会、本会の職域部会、学識経験者のほかに、厚生労働省、農林水産省、環境省の担当者が参画しております。狂犬病は我が国において半世紀にわたり発生していませんが、平成18年にフィリピンからの帰国者2名が本病を発症し、

死亡した事例がありました。さらに我が国と同様に本病が未発生であった台湾において、平成25年11月11日現在、野生動物であるイタチアナグマ215頭やジャコウネズミ1頭の他に犬1頭で本症の発生が見られ、社会問題になっています。日本獣医師会では大きな社会的リスクを有する狂犬病の完全制御に向けて活動を強化してまいります。

女性獣医師支援特別委員会では、前述しましたように新規獣医師の半数を占める女性獣医師の就業を支援するため、キャリアアップと就業の継続に係る方策を検討し、獣医師の地域や職域の偏在を解決する一助として女性獣医師の活動を支援し、就業者と雇用者双方への情報提供や未就業者に対する就業や現職復帰への学習機会の提供、キャリアアップを図るための体系的な学習機会の提供、職場環境の改善対策等の推進を目指してまいります。

日本医師会との連携推進委員会では、獣医療と医療を専門職域とする獣医師と医師は、動物と人の健康増進を通して国民の生活向上に貢献する使命を担っています。一方、国民の間で高病原性鳥インフルエンザをはじめ、多くの人獣共通感染症の流行制御、また食品の安全性確保に関する意識が高まる中、獣医師と医師が緊密に連携し、安全で安心な社会を構築することが求められています。

平成24年10月に世界医師会(WMA)と世界獣医学協会(WVA)は、「One World, One Health」の理念に基づき、協力関係を構築する旨の覚書を締結しました。このような状況から、本会は日本医師会と連携を深めるために特別委員会を設置し、その方策について検討を行う必要があります。具体的な検討項目は、人と動物の共通感染症の流行制御に関する情報の共有化、獣医師会と医師会間での課題別活動や体系的活動の推進、全国レベル並びに地域レベルでの獣医師と医師の交流を図るための方策等であります。なお、平成25年11月20日に明治記念館で開催された日本獣医師会会長を激励する会「獣医療提供体制の整備・充実を目指すキックオフ宣言」



図1 日本獣医師会と日本医師会との協定書締結(2013年)

に先立ち、公益社団法人日本獣医師会と日本医師会の学術協力の推進に関する協定を締結しました。

歴史上第一歩となる医師会との学術協定の成果は獣医師会のみならず、社会から大いに期待されています。さらに、この日本医師会との連携は、学術的な活動の期待だけでなく、連携を通して本会の組織力や事業活動の参考に、また広く獣医界全体のスキルアップにつなげたいと考えております。

この他、現在、獣医師就業状況で大きな問題となっているのは、職域偏在と地域偏在の存在です。これらを解決するには公務員獣医師の処遇改善が不可欠です。家畜衛生や公衆衛生の現場において、防疫活動、保健衛生、食品衛生や環境衛生の中心的役割を担っている地方公務員獣医師が、一層責任と誇りを持って職務に専念できるように処遇改善を図る活動を展開しております。この課題は、私が福岡県獣医師会会長を務めてきた時代からのライフワークであり、全国の公務員獣医師が採用困難職種である最大の要因です。

4 会長短信「春夏秋冬」にも「歩む方向」の経過説明を

私は会長就任後、日本獣医師会メールマガジンに会長短信「春夏秋冬」を掲載し、皆様方に情報をお送りしています。平成25年8月20日の第1報は「本会の発展はスピードある対応と組織行動で」と題して、次のメッセージを発信しました。

構成獣医師の皆様と情報を共有し、一緒に考えかつ活動し、本会のさらなる発展を図るため、メールマガジンに会長短信「春夏秋冬」のコーナーを設けました。身近な話題等を構成獣医師の皆様にお伝えしてまいりますので、以降掲載します本コーナーをよろしくご愛読ください。

会長就任の挨拶は、日本獣医師会雑誌第66巻第8号及び日本獣医師会ホームページにその全文が掲載されていますので、ご覧いただければ幸いです。当日の挨拶の中で、次の二点を強調しました。

その一つは、本会が各種の課題に取り組む姿勢についてであります。何事においても、常にスピード感を持って対応することが大切であり、あらゆるチャンネルを駆使して正確な情報を収集し、得られた情報を客観的に分析し、その結果を本会として迅速に発信してまいります。

もう一つは、日本獣医師会と地方獣医師会の連携を強め、全国組織として構成獣医師の皆様への期待に適切に応えるためのシステムを構築することにあります。そのためには日本獣医師会と地方獣医師会が忌憚のない意見交換を行い、双方が共に発展するように努力することにあります。

現在、日本の社会が求めていることは、国家の進むべき新しいあり方です。明治維新を象徴とする近代国家建設から145年経過した今日、成熟した我が国が進むべき新しい道を見出そうとしています。日本獣医師会においても同様で、本会のビジョンとミッションを明確にして、進むべきロードマップを明示しなければなりません。当面の課題は、若い力を結集し、組織力と組織行動の強化であります。問題提起された議論を集約し、それに基づいて日本獣医師会として行動を起こし、その結果を十分に検証することにより、組織は評価されます。魅力ある組織作りをすることにより、組織の結束と強化がなされるものです。

これらのことは、日本獣医師会にとっても、地方獣医師会にとっても、構成獣医師の皆様にとっても、極めて重要であります。本会が長年積み重ねてきた成果に基づいて社会の期待に積極的に応えるためには、課題を具体的に提案し、議論し、機関決定し、組織行動を取ることによって、目的が達成できると確信しています。私はこのような考えに基づいて全力で取り組んでまいります。ご支援ご協力をお願いいたします。なお、第2報（9月17日）は「広く国民の理解の下で狂犬病対策の推進を」、第3報（10月18日）では「五十嵐先生のご逝去に接し」であります。

第4報（11月19日）では「私の活動の原点は動物愛護運動から」と題して、以下のメッセージを発信しました。公益社団法人日本獣医師会会長就任の祝賀会を、平成25年10月19日（土）、ホテルニューオータニ博多において、地元九州の政財界をはじめ、大学、獣医・畜産・動物福祉関係の方々を中心となって、盛大に開催していただいた時のことを引用しました。

祝賀会では、発起人である副総理兼財務大臣の麻生太郎先生、福岡県知事の小川 洋先生、元衆議院議員の古賀 誠先生、福岡県議会議長の松尾統章先生、日本医師会の横倉義武先生から祝辞を、また出席された約1,300名の方々からお祝いの言葉をいただきました。



図2 英国ドッグズホーム・バターシー訪問（1992年）

当日、私は挨拶の中で、私が今日を迎えるに至ったある出会いをお話しました。それは私が日本大学を卒業し、現副総理兼財務大臣の麻生太郎先生のお母様の麻生和子様にご挨拶伺った際のことです。「福岡と九州で動

物愛護運動を起こしなさい」との助言をいただきました。麻生和子様が父上の吉田 茂元総理と一緒にイギリスに滞在された時、「日本人の動物に対する接し方になっていない」と批判を受けたことが、いつも頭の片隅にあり、忘れられないということでした。私は、このお言葉を重く受けとめて、以来30年間、福岡の地で動物愛護運動を実践してまいりました。祝賀会の冒頭に私の略歴を紹介いただきましたが、私は福岡県議会議員を昭和62年初当選以来連続7期27年間務め、地方政治や地方分権に取り組んでまいりました。その間、福岡県獣医師会会長を20年間、日本獣医師会の理事を10年間、副会長を8年間務め、昨年6月に第12代公益社団法人日本獣医師会会長に就任いたしました。この私の獣医師会活動の原点は福岡での動物愛護運動であると言えます。



図3 福岡県動物福祉協会5周年（1991年）
（常陸宮華子妃殿下お祝いの言葉）

今日、獣医師は産業動物や小動物の診療、野生動物や実験動物の保護管理、動物福祉、家畜衛生や公衆衛生の指導等、極めて幅の広い職域を担っています。特に昨今、大きな課題の一つである食品の安全性確保や人と動物の共通感染症に関しては、国民の関心が非常に高まっております。こうした職域で獣医師が誇りを持って活躍するためには、獣医師の処遇を改善すると同時に、国民への期待に応える質の高い獣医師を育成し、新しい発想と感性を持ち、実践力のある獣医師会を構築したいと考えます。

また、本祝賀会には東京から駆けつけていただいた横倉日本医師会会長が、今後、日本医師会は日本獣医師会との連携を強化して、人と動物の共通感染症を中心に国民の健康を守るために最新の学術情報を共有したいと話されました。お陰様で関係者の努力と熱意によって、前述のとおり、昨年11月に日本医師会と日本獣医師会は、学術面での包括的な協定を締結する運びになりました。地方獣医師会におかれても、地方医師会との連携を深め、共通課題に対するシンポジウムの開催や協議会を設置する等、「One World, One Health」の理念に基づ

き、公益社団法人としての使命を果たされますよう期待いたします。皆様方のご支援とご協力をお願いいたします。

第5報（12月18日）では「新しい年に向かって」、第6報（平成26年1月17日）では「目標実現の年に」のメッセージを発信しました。皆様と私の共通の話題にしていただければ幸いです。

終わりに当たり、獣医師会の「歩む方向」は日本獣医師会並びに会員各位の発展であり、構成獣医師の皆様が誇れる環境の整備充実であり、さらには国民が安全安心な生活を営める社会の構築であります。私は日本獣医師会会長として、全力で活動してまいりますので、よろしくご支援、ご協力をお願いいたします。

本編は、平成26年2月6日に開催された「埼玉県獣医師会公益社団法人移行記念新春懇談会記念講演」での藏内会長の講演内容を記事としたものです。